



地域がん診療連携拠点病院・基幹型臨床研修病院・協力型臨床研修病院・地域医療支援病院・災害拠点病院・熊本DMAT指定病院・救急指定病院

理念 140年の歴史と設立の経緯を忘れず全人医療を提供します

基本方針

患者中心の医療
患者の人権と意思を尊重します

診療3本柱
がん・救急・予防医療を中心に医療機能の充実を図ります

完結型医療
地域の医療機関と連携し安心できる医療の展開を行います

地域包括ケア
地域包括ケアシステムを推進し地域のまちづくりに貢献します

社会貢献
災害医療派遣・医療情報公開・医療ボランティアの活動を行います

医療人育成
地域医療に貢献できる医療人の育成を行います

水害から2年－様々な取り組み－

令和2年7月豪雨から2年が経過しました。
被災された方々におかれましては、生活再建が済まれた方、これからという方、2年が経過しても様々な状況でお過ごしのことと思います。

被災した各市町村では豪雨の経験と教訓を生かし、復興計画と並行して新たな防災情報発信や災害対応訓練等、災害対応力の強化に向けて取り組まれています。

人吉医療センターの取り組み

当院でも人吉医療センター豪雨災害タイムラインを作成し、梅雨入りを控えた5月に豪雨災害タイムライン訓練を行いました。

当院は災害拠点病院に指定されており、傷病者を受け入れる役割を担っています。今後も浸水経験を生かしながら、訓練と振り返りを積み重ね、入院患者の安全とより多くの傷病者の救命に繋がられるよう取り組みを強化していきたいと思っています。



7月3日(日)水害から2年が経過し復興支援イベント「鎮魂と希望の集い」が人吉市中心市街地で開催されました

増水の危険度に応じて照明を点灯させる
人吉市ラフティング防災アラートシステム（水の手橋）



写真提供：人吉市

くまもとマイタイムライン



確率上は「数十年に一度」であっても、記録的大雨が毎年降ると想定し事前の備えは日頃から意識しておく必要があります。

熊本県では、家族構成や生活環境に合わせて落ち着いて避難できるよう、一人一人が作成する防災行動計画（マイタイムライン）の普及促進に向けた専用ウェブサイト (<https://portal.bousai.pref.kumamoto.jp/timeline/>) を公開しています。「自助」の取り組みとして活用し、各ご家庭の状況に応じた避難計画を事前に作成されてみてはいかがでしょうか。

医療福祉連携室 野々上 真一



第104回 INARS (アイナース) 九州プロバイダーコース in 人吉医療センター

2022年6月25日(土)、INARS プロバイダーコースが約2年ぶりに当院で開催されました。本コースの目的は、「心停止を回避する」が主眼にあり、そのために実技を通して、患者の「評価」「認識」「行動」を繰り返し行う体系的アプローチをチームで学んでいきます。

コロナ禍という事で今回は院内限定での開催でしたが、今後の状況を見ながら通常開催を考えています。その際はぜひ近隣医療施設の方の受講をお待ちしています。

私たちは今後も、人吉球磨地域に質の高い看護・安心安全な看護が提供できるよう日々研鑽してまいりますのでよろしくお願い致します。

INARS インストラクター一同



受講生の声

今回 INARS を受けて、患者の状態変化を迅速に評価・認識した上で、スタッフと協力し医師が到着するまでの間、患者の急変を回避するための適切な対応を学ぶことが出来ました。

私は入職時より急性期病棟に勤務しており、勤務を始めて間もない時期に患者が急変しました。その際に急変時対応と一次評価方法を教えていただく機会がありました。入職して知識も浅く、経験も少なかった私にとっては緊迫感のある中で迅速に評価し対応することはとても高度な技術の様に思えました。しかしそれから3年経ち、急変時場面や重症度の高い患者を思い返しなが INARS の講義を受け、さまざまな症例から患者の認識や対応を同僚と確認したことで、3年前の自分に比べ観察スキルやスタッフへの対応スキルがより身につけていると実感できました。



INARS では、シミュレーション体験を通してチームの情報共有の重要性や医師への報告

のタイミングや仕方も学びました。今回の研修で、患者が安心して治療をうけるためのスキルアップができてよかったです。

7階病棟 矢野 薫



タスク参加者の声

今回約2年ぶりに当院で開催された INARS プロバイダーコースにタスクとして参加させていただきました。受講生と同じく参加する中で第一印象から一次、二次と評価方法を学び、新人看護師からベテラン看護師が経験年数関係なく参加でき、看護師として日々フィジカルアセスメントの強化が必要とされる現場で、生理学的根拠に基づいた実用的な評価ツールであると再認識することができました。

今後も INARS で学んだ取り組みが共通認識として活かしていけるよう繰り返し現場でも実践していきたいです。

7階病棟 岡原 尚己

病床逼迫の危機！感染対策のご協力を！

全国で爆発的に増えつつある新型コロナウイルス、県内では行動制限こそないものの、新規感染者数も増えており今後の動向が懸念される状況にあります。郡市の感染状況も増加の一途を辿り、年代別は10歳未満～90歳代と幅広い年齢層でみられ、重症化しやすい高齢者層の入院加療が急増し専用病床が逼迫の危機にあります。協力医療機関や高齢者施設等の協力を得ながら救急対応に備えた病床運用に向けて取り組んでいますが、地域の実情を踏まえると対応できる病床にも限りがあるため、このまま増え続けると、重症者を優先的に入院加療とし、中等度症状であればある程度入院加療をおこない、症状の程度によっては自宅療養をしていただく状況となる可能性があります。これから学生は夏休みを迎え、8月には県を越えた人の動きも想定されることから新規感染者数増も十分に考慮した感染対策が必要となります。皆様一人ひとりの感染対策の意識が地域の医療体制の確保に繋がります。皆様自身を守るため、地域医療を守るため、今一度自身でできる感染対策を振り返り、まずは日常的にできる対策から共に心掛けて取り組んでいきましょう。

医療福祉連携室 野々上 真一



研修医あいさつ

1ヶ月間という期間はあっという間でしたが、とても充実した日々を過ごせました。小児科で研修させていただき、新生児・乳幼児の診察や治療、乳幼児健診など、成人とは全く違う臨床の現場を経験することができ、全てが新鮮で勉強になりました。また、救急外来も経験し、至らない点は多々あったかと存じますが、上級医の先生方やスタッフの皆様、そして研修医の皆さんに懇切丁寧に教えていただき、緊張はしましたが少しずつ救急の現場に慣れることができました。

また医療のみならず、朝夕の大手橋から見える球磨

川の景色や、美味しい食事を満喫し、人吉の魅力を改めてたくさん感じることができ、心が浄化されとても幸せでした。地元・人吉で少しでも医療に携わることができ、大変嬉しかったです。この1ヶ月間、指導していただいた諸先生方やスタッフの皆様、そして快く迎えてくれた研修医の皆さんに心より感謝申し上げます。本当にありがとうございました。



済生会熊本病院 臨床研修医 2年 増田 眞子

第60回地域協議会、 第16回南九州地域三県県境医療連携懇話会開催

2022年6月30日(木)18:00から第60回地域協議会を、18:30から当院3F講堂「どうあん」にて第16回南九州地域三県県境医療連携懇話会を開催しました。

地域協議会では、限られた時間の中ではありませんでしたが、議員の交代、各地域での少子化、産科確保の問題、コロナ禍でなかなか進んでいない地域医療構想について活発な意見交換が行われました。

連携懇話会では、人吉球磨、えびの、伊佐地域の先生方を会場、オンラインのハイブリット形式でお招きし、当院医師を合わせ総勢70名程の先生方へご参加を頂きました。

まず、久留米大学 特命教授 佐藤敏信先生より、「2022年4月の診療報酬改定、コロナ、ウクライナ情勢から読み解くこれからの医療」のご講演を賜りました。

懇親会では、人吉市医師会会長 友永和宏先生にご挨拶をいただき、球磨郡医師会会長 権頭 博先生の開会のご発声の下、懇親会がスタートしました。会



は、当院新任医師や研修医の挨拶を行いました。今回は、感染症対策で院内の参加者を制限し会食を控えるなど、縮小した形での開催となりましたが、日頃、なかなかお会いすることのできない地域の先生方と直接顔を合わせお話しすることができ、親睦を深める良い機会となりました。

この度は、ご多用の中、多数ご参加頂きまして、誠にありがとうございました。当院スタッフ一同、地域の中で連携を大切にし、地域の中核医療機関として、しっかりと役割を果たしていきたいと思います。今後ともご指導、ご鞭撻の程、宜しくお願いいたします。

医療福祉連携室 杉松 紗織

5年ぶり開催！天使のちえふくろ

7月6日(水)13:30～人吉市東西コミュニティセンターにおいて、当院小児科谷口俊和医師が、人吉市保育園連盟の保育士・保育教諭30名を対象に講演をいただきました。

今回は『乳幼児の病気や感染症について』と題し、発熱や熱性けいれん、また嘔吐下痢やインフルエンザ、



RSウイルス感染症、さらにアレルギー反応等々、乳幼児で起こりうる様々な疾患の説明と、それに対して保育園で行う対処法、保護者への説明の方法など、幅広く丁寧に説明がなされ、参加者は熱心にメモを取られていました。

最後に代表の方より、「子ども達の命を預かる現場で病気の症状など迷いも多くあったけど、今回の講演の学びを、園内でも情報共有をし、正しい知識で保育していきたいです。」と感想をいただきました。

当院では、地域活動として医師や各専門職種の講演活動も行っています。講演依頼の際は、可能な限り日程調整を行いますので、ご要望ご相談など、人吉医療センター医療福祉連携室へご連絡ください。

小林看護医療専門学校 郊外研修 人吉医療センター訪問

6月21日、郊外研修の一環で、宮崎県的小林看護医療看護専門学校2年生41名、引率教員3名の訪問がありました。郊外研修の受け入れは今回が初めてです。

病院の紹介後、卒業生である2年目看護師の大山大輝さん、横山春輝さんによる現況報告後、意見交換をしました。「看護師になってよかったこと」「学生時代にやっておくべきこと」「国家試験対策」等の活発な質問に、先輩看護師としての確かなレスポンスがありました。当時の担任教員は、嬉しそうに2人の成長した姿をカメラに収められていました。

院内見学会においては、当院の「診療3本柱」である「がん・救急・災害」に関連した各部門や最新の医療機器を見学することで、当施設の概要をイメージで



きたようです。特に、令和2年の熊本豪雨における当院の活動から、災害医療に興味を示した生徒が熱心に質問する姿が印象的でした。中には、当院で働いてみたいという学生もあり、効果的な見学会となりました。

今後も、JCHO病院の役割や地域の急性期病院としての機能等、自施設の強みを広く公開し、発信していくことが私たちの役割であると考えます。

看護副部長 井上 久美

地域の医療を未来へつなぐ～私たちのミッション～ 令和4年度 各部署目標

事務部門

健全な病院運営を行うため、以下の取組を目標とする。

- 1) 定数内の人員を上手く活用し仕事のシームレスを行う…複数担当制の導入及び業務改善への取り組み
- 2) 「働き方改革」への取り組み…勤怠管理システム導入、超過勤務時間削減への取り組み
- 3) 経費削減への取り組み…補助金活用によるコロナ対策、月次、給与変更に伴う業務改善への取り組み
- 4) 収金削減への取り組み…JCHO最終年度未収金比率0.057への取り組み
- 5) 減点レセプトの削減への取り組み…減点調査と各医師への協力依頼への取り組み
- 6) 健診オプション追加による受験者増加への取り組み

経理課

- ・物品管理システムによる請求書関連業務及び月次決算業務を効率化し、超過時間の削減を図る

医事課

- ・査定減額の減少…査定減の要因を把握し、再審査請求への対応を行う。
- ・未収金の減少…未収金患者への督促強化に努め、積極的に弁護士を活用する。
- ・未請求保留及び返戻保留の件数の減少…2ヶ月以内での請求に努め、保留件数を減らす。
- ・精度の高いデータの収集、作成、提供…DPCデータを活用したクリティカルパスの作成支援。(診療情報管理室)
- ・医師事務作業の更なる負担軽減…専門知識を習得し、チーム医療に積極的に参加、貢献する。(医療クラーク)

総務企画課

総務企画課は、人事管理、労務管理、福利厚生、業績評価や給与、情報システム、文書管理、さらには臨床研修や秘書業務、病院行事や各種施設認定届出などの総合的な業務により病院運営を円滑に進める役割があります。一人一人が高い意識を持ち、患者のため、職員のため、病院のため、さらには地域のために、何事も一所懸命考え行動していきましょう。

- ①情報発信と共有の徹底
- ②超過勤務時間の削減・ワークライフバランスの推進
- ③職員満足度向上
- ④担当業務におけるPDCAの活用とタスク管理の徹底

予防医療センター

- 特定保健指導を実施して、健康維持増進への取り組みを進める。
 - ・受診者へ保健指導の意識付け強化を図り、保健指導の件数増加に努める。
- 年間受診者数15,000人以上(過去5年間平均受診者数14,869人)を目標とする。
 - ・受診者、自治体、事業所との対応を丁寧に応じ、リピーターを確保する。
 - ・新規健保組合および新規事業所が求める検査項目に応じる。
 - ・キャンセル者への、フォロー連絡を実施する。

実習感想

今回の実習では、人吉医療センター、五木村診療所、訪問看護・診療、健診など様々な形の医療体制を経験させて頂きました。院内では総合診療科・救急外来・小児科・産婦人科・外科・循環器内科等でお世話になりました。入院患者の診察や、外来陪席、問診、手術、検査手技など実践的な実習が多く、とても勉強になりました。

五木村診療所では、定期受診の方の診察も担当しました。初めは緊張して中々上手に話せませんでしたが、先生方の診察を見ていくうちに、患者さんの変化や病院に来るまでの背景を考えながら診察することの楽しさを感じるようになりました。診療所の方々にも、バイタル測定や薬剤の一包化、五木村や人吉全体の事など色々なことを優しく教えて頂き、将来に役立てたいと思いました。

訪問看護・訪問診療では、実際に生活の場に行って近い距離で接するにあたり、コミュニケーションの取り方が少し変わるのだなと思いました。患者さんやご家族の意思に寄り添って、betterな生活に導いていくような暖かさが印象に残っています。私には将来、医療アクセスが制限された地域で訪問診療に携わりたいという夢があるのですが、そのための行政的課題や自身が磨くべき能力への見解も深まった実習となりました。

研修医の先生方や、スタッフの皆様もとても丁寧に対応してくださり、人吉という素敵な地で実習が出来たことを本当に嬉しく思います。改めまして、3週間ありがとうございました。



熊本大学 6年 渡邊 光紗

救急救命士の就業前 病院実習を終えて

救急救命士の就業前病院実習に際しまして、下川副院長をはじめご指導いただきましたスタッフの皆様には心より感謝申し上げます。

本実習に臨む上で、観察及び問診の上達と確実な特定行為の手技習得という2つの目標を掲げました。

実習は、搬送されてきた傷病者に対して観察と問診を実施しました。なかなか要領よくいかずに悩んでいましたが、スタッフの皆様にご親切丁寧なご指導をいただき、スムーズな観察と問診ができるようになったと実感しています。また、処置や検査の見学もさせていただき、救急隊が処置や検査に必要な情報をしっかり伝達することで、迅速な治療を開始できることを知ることができました。今後は、搬送する傷病者の院内で

行われる処置等を見据えた情報収集と伝達を実施していけたらと考えます。

特定行為については、患者様にご協力いただき、生体に対して多くの経験を積むことができました。実習の初めの頃は、補助が無いと成功させることができませんでしたが、スタッフの皆様から経験を踏まえた貴重なアドバイスをいただけたことで、自信を持って特定行為を実施できるまでになりました。

20日間の実習で学んだことを救急現場活動で活かし、地域の方々の助けを求める声に迅速に対応できるように、向上心を持って日々精進します。貴重な経験をさせていただきありがとうございました。

20日間の実習で学んだことを救急現場活動で活かし、地域の方々の助けを求める声に迅速に対応できるように、向上心を持って日々精進します。貴重な経験をさせていただきありがとうございました。

人吉下球磨消防組合 救急救命士 佐野 弥



吉田病院 精神科リエゾンチームが介入しました

7月6日、吉田病院精神科リエゾンチーム（精神科医 興野先生、志水外来師長、豊永PSW）に来院いただき、精神心理面で支援が必要な患者さんの診察及び、当院主治医、病棟師長、MSWとのカンファレンスを実施し、今後患者さんにとっての最善の治療介入ができるようにアドバイスをいただきました。

患者さんの精神心理面の早期解決に向けて

当院では、入院中の患者さんで精神心理面に問題があり、精神科専門医の診察を要する場合、精神科医師が不在のため、退院後もしくは入院中に精神科専門病院を受診していただいておりますが、患者さんの中には緊急性が高い場合や移動が難しい方もいらっしゃいます。

今回、精神科リエゾンチーム介入の依頼、日程調整、当日の診察及びカンファレンス、その後の費用請求等システム化することができました。これにより、患者さんにとって、より迅速に問題解決のための支援を受けることができ、また、この連携により院内スタッフも対応面での相談でき、今後の当院での診療・看護に寄与するものと考えます。

最後になりましたが、今回患者さんの診療に際し、ご協力いただきました吉田病院 興野先生、スタッフの方々に心より御礼申し上げますとともに今後とも宜しくお願い致します。

医療福祉連携室 山田 一裕

“リエゾン”とはフランス語で「連携・橋渡し・つなぐ」を意味する言葉。

精神科リエゾンチームは、身体疾患で入院中の患者さんが何らかの精神心理面の問題を抱えた場合に、精神医療と身体医療をつなぎ、担当各科の医師や看護師と「連携」しながらそれぞれの専門性を活かし、チーム医療を行っている。



月の時間外総労働時間が最低になりました！

JCHO 中期目標から病院年度目標を策定、新たに6月からは月間目標を掲げ、全職員が各職場において取り組みを開始しています。

6月は医療の質・安全や業務・経営改善面から定時終業を目標とし、例えば、病棟ではPHSに15時のアラームを設定し業務再分担を行うことやベッドサイドでの随時記録に努めること、診療科では効率の良い診療を行うための工夫をすることやノー残業デイの設定、終業時刻にPCシャットダウンを実施するなどを掲げ行動しました。結果は、多くの職場から時間内に終業することができたとの回答があり、過去5年間の各月における全職員の時間外総労働時間数を見ますと最低の時間数となりました。医療を取り



巻く環境の違いはありますが、単純にうれしい限りです。また、定時終業により仕事と生活のバランスがよりよいものになることを望んでいるところです。

7月は、節電・省エネ・無駄を無くそう！です。

消灯やペーパーレス化、エレベーター不使用、使用物品の節減や期限切れ薬剤の減少に努めるなど、各職場において実践中です。

8月からも取り組んでいきましょう。



総務企画課 西山 三智

8月10日は「健康ハートの日」

1985年に日本心臓財団より国民の心臓病に対する予防意識の向上を図ることを目的に、語呂合わせで8月10日(ハート810)を「健康ハートの日」と定められました。国民が生活習慣を見直し、健康をチェックするという願いが込められています。

心臓の病気は先天性の病気だけではなく、生活習慣との因果関係で発症するケースも多く、高齢層から若年層といった幅広い年代で気をつけたい疾患です。当院の循環器内科における心臓の治療においては、緊急で冠動脈カテーテル治療(PCI)を要した件数は年間約60～100件、下肢動脈カテーテル治療は約30～70件、ペースメーカー治療(植込み・電池交換含む)は約70件施行しており、多くの方が治療後のアフターケアをしておられます。

当院心臓リハビリテーションでは、CPX検査(心肺運動負荷試験)を実施し心臓への負担に考慮した運動計画や、高血圧・糖尿病などで運動療法が必要な方へのアプローチを行っております。それぞれに見合った適度な運動を心掛けていただき、心臓病予防に取り組んでいきましょう。



CPX 検査の様子

エコバッグでも食中毒予防

2020年よりレジ袋の有料化がスタートしエコバッグを利用する人も多くなりました。コンパクトに畳むことができお買い物で役に立つ便利なアイテムですが、目につく汚れやにおいがなくても、知らないうちに魚や肉の汁・野菜の土などがエコバッグに付着することもあります。そのままにして使い続けると食中毒菌が増殖し、新たに購入した食品に菌が付着してしまいます。エコバッグを衛生的に使うために日頃から気を付けたいポイントを紹介します。

★定期的に洗いましょう

頻繁に買い物に使うのであれば乾きやすいポリエステル素材のものがおすすめです。

★汁漏れが心配な肉、魚、土がついたままのラップされていない野菜はポリ袋へ

肉や魚の汁、野菜の土がエコバッグや他の食材に付着しそうなときはポリ袋にいれましょう。使用したポリ袋は再利用せず適切に捨てましょう。

★エコバッグに入れる順番に気をつけましょう

肉、魚、冷蔵・冷凍食品などの冷たいものはまとめて入れて温かいものと密着しないように入れましょう。硬いものや重たいものを下に入れると荷物が安定し食品の汁がこぼれにくくなります。

★エコバッグを区別しましょう

食品と日用品を入れるバッグを使い分けると衛生的です。

★食品を入れたエコバッグの持ち運びは短時間にしましょう

肉や魚、冷蔵・冷凍食品が入ったエコバッグを持ち運ぶ際には短時間で帰宅し直ちに冷蔵庫に入れましょう。

栄養管理室 北岡 志織

新 任 紹 介



壁村 弥生(循環器内科・看護師)

うれしかったこと：5年ぶりに九州に戻ってこれた

自分の性格：おっとり

自分のコマーシャル：球磨地方に住むのは初めてです。

地域の方々のお役に立てるように頑張ります



藤本 美咲(薬剤部・事務助手)

趣味：料理

嬉しかったこと：新築に引っ越せたこと

自分の性格：マイペース

自分のコマーシャル：早く職場の環境に慣れるように頑張ります！スタッフの皆さんと仲良くなりたいので、よろしくお願いします！